

鹿児島県宇検村(奄美大島)

中 野 晶 仁*

それでは、よろしくお願いします。宇検村はとても小さい村です。人口も1,700人を切るぐらいの規模の小さな村なんですけれども、それぞれ、各自治体もそうであるように、宇検村も教育行政の基本目標というのがあります。「ふるさとを愛し 未来へはばたく 心豊かで たくましい人づくり」、この目標に向かって、私たち教育委員会のメンバーは、日々、仕事をしているところです。

宇検村には、小学校4校、中学校4校、合わせて8つの学校があります。ただし、宇検村の場合は、小中併設校といって、同じ敷地の中に小学校と中学校が建っている学校が3つあります。ですので、学校の数としては、5つということになります。小さい学校で言うと、名柄小中学校は子どもの数が、ちょうど今、転入生が1人来て、10人です。宇検村で一番大きい学校であっても、田検小学校という学校が、児童数49名ということで、ここも宇検村の中では一番大きいんですけれども、複式学級といって、一つの教室に二つの学年が入って授業を行っている、そういう学級のある学校です。そういうところがとっても多いです。

宇検村はどんどころですかと聞かれたときに、ここに来て4年目になるんですけれども、私は、宇検村はとても平和な村と思っています。どう平和なのかといいますと、例えば、教育委員会の入り口ですけれども、本当は自動ドアなんです、いつも自動ドアになっているところを私は見たことがありません。自分で、手で開けなければいけないんですね。なぜ手で開

けるのかなと私なりに考えてみると、恐らく電気をなるべく使わずに、環境のことにも配慮しているのかなと思っています。ですので、ここで昼ご飯を食べるときなんかは、部屋の電気も消して食べるんですね。なるべく節電とかそういうのにも、心掛けようというような意識のある村です。



湯湾岳を流れる川



湯湾岳公園から望む焼内湾

他にも、平和だなと思うところがいくつかあるんですけれども、よく平和の象徴というところでは、ハトが挙げられますけれども、宇検村

*宇検村教育委員会 指導主事

にはハトはいません。いないんですけれども、最近の新聞に載った記事がありますが、サシバという鳥がやってくるんですね。その観察会に、宇検村内の家族、子どもたち、50人近く集まったというような新聞記事があります。こういう鳥を観察して、大事にしていこうね、守っていこうねというような活動にも、宇検村の児童生徒、全部で合わせて120人ちょっとなので、その中でも多くの子どもたち、家族が参加する。そういうところでも、平和な村だなと感じています。宇検村、「サシバが渡ってくる村」です。

他にも、平和の祭典といったら、オリンピックなどがありますが、宇検村でも村民体育大会という行事が盛大に行われます。今年、去年はコロナの関係でできなかったんですけれども、いつもであるとやっています。私が4年前に初めて参加したときにびっくりしたのが、ちゃんと聖火がともっていることです。この小さい規模の宇検村の体育大会で、聖火リレーのようなものが行われて、実際に火をともし、体育大会を行うという、すごく平和を意識した村なのかなと思っているところです。

他にも、私、ビートルズが大好きなんですけれども、ビートルズのメンバーが、あるインタビューで、「あなたたちは反戦の歌、戦争に反対するような歌とかは作らないんですか」と聞かれたことがあったんですね。そのときにメンバーは、「俺たちの歌は、全部反戦歌だ」というように答えています。では、宇検村ではどうなのか。宇検村で歌を歌うといったら、教育長なんですけれども、非常に鳥唄を愛しております。教育長は、よく自己紹介で「みょうじはむらので、なまえはみよじ。村野巳代治です」と、研修会とか、重たい雰囲気の方の会議のときに言うんですね。そうすると、みんな、くすっと笑って非常に穏やかな気持ちで、その後の会議が進んでいく。そういう意味で、教育長自ら、平和を体現している、そういう村だなと思っています。

教育委員会には中庭があります。ここで冬瓜を教育長が育てているんです。冬瓜という植物は、食べることができるんですね。こういうのを中庭で育て、そして、一生懸命仕事をしている職員に分けてくれる。そういう村です。「働き者は冬瓜をもらえる村」なんですね。

私は、指導主事という仕事をしています。指導主事には、大体、学校教育に係るさまざまな業務があります。3つ挙げますけれども、学力向上。その子どもたちの学力を高めるためには、教職員の資質の向上。そして、いろいろな調査の集計とか報告とか、例えば、学校が人権同和教育にどういう取り組みをしていますとか、最近、業務改善といわれて、残業がどれくらいですかとか、そういう調査なども、私が村内の学校の教職員の集計をして県に報告している、そんな仕事があります。

一言で、私の仕事は何かというと、教育長が望むことをできるだけ叶えるということなのかなと思っています。教育長は、こうしたい、ああしたい、もっと小学校の学力を高めてほしいとか、いろいろ思ったりするわけです。そういうのを一つ一つ叶えていたり、また、教育長などが、例えば、先ほどのドアなんですけれども、なぜ左側だけ押して開けると、同時に右も開くのかなと疑問を持ったりします。そこで、私に尋ねられるんですね。ぱっと答えることができません。こういうときに、どうして右も左も片方を押すだけで、もう片方が開くのかというのを調べて、教育長にこういう仕組みみたいですよというようなことを伝える。そんなこともしています。

宇検村教育委員会は、いろんな取り組みしているんですけれども、例えば、宇検村の文化財とか遺跡、そういうのを学校の教職員に研修してもらおうような研修会もしています。バス停、ブラジル橋、対馬丸記念碑などがありますけれども、お墓なんかも見て回ります。宇検村になぜブラジルという橋があるのかというと、宇検村からブラジルに移民をして渡っていった人た

ちがたくさんいるんですね。そういう人たちとの関係でできた橋がある、そういったことなどを教職員に伝えて、それを基に、また地域のことを子どもたちに学ばせてほしい、そういうことでしている事業です。

親子茶道教室というものがあります。この親子茶道教室なども、子どもたちがマナーをしっかり身に付けるとか、あるいは文化の継承、そういったことも含めて、取り組んでいる事業です。テーブルマナー教室ということもしています。宇検村の子どもたちは、高校生に上がる時には、親元を離れて生活をするようになる子どもが多いです。なぜなら、宇検村には高校がないんですね。近い高校に行くにも1時間近くかかるので、それだと朝、間に合わなかったりする。そういうことで、もう下宿をするという子どもが多いです。そういう子どもたちが社会に出たときに、恥ずかしい思いをしなくていように、フォークやスプーンの使い方、ナイフの使い方、食事の作法、そういったものを学ばせる機会として、中学校3年生に実施しているところです。

宇検村では、給食費は無料ということになっています。子どもたちが、あるいは親が、給食費を払うことはありません。子どもたちには、年間、小学生では3万8,000円、中学生には4万2,000円、全員に補助している事業になります。すすすす食べて大きくなってほしいというそういう願いもあります。ちょうど1年ぐらい前に、宇検村内も日本中もでしたけれども、学校が休校になりましたね。そのときにも、子どもたちには授業はしないだけけれども、親が働きに行ってる家庭も多いので、給食だけ食べに来ていいですよというような開放もしました。



テーブルマナー教室



英語ショートスピーチ・弁論大会

最近、英語教育も非常に力を入れなければならないということで、英検を受験するお金を宇検村で払っている、そういう事業もしています。ここ2年ぐらいでも、小学生も受けられるようにして、まだまだ5級とか4級とか、ちょっとずつなんですけれども、小学生・中学生が少しずつでも、英検も受けて自信を付けてほしいなと思って取り組んでいます。

対馬丸交流会というのも行っています。太平洋戦争の末期に、沖縄から疎開するための船が出たんですね。ところが、アメリカの潜水艦に見つかってしまって、途中で撃沈されてしまうんですね。そこで流れついた遺体とか、あるいは、数少ない生存者の面倒を見てあげた。そういうことがあって、沖縄県との交流がここ3、4年、始まっているところです。これは、沖

縄県の親子で40人ぐらい人がやってきて、宇検村内の小中学生と交流をする、そういう事業になっています。

先ほど、教職員の資質向上という話もしましたが、先生方を集めての学習会、こういったこともしています。複式の指導法、国語の指導法、最近、タブレットなども出てきていますので、ICTの利活用講座など、いろいろなものを行っています。人数はニーズが高ければ多いし、少ないときには4人とか、そういう中で研修会をすることもあります。

子どもたちに表現力を高めてほしいなという思いから、作文教室なども開いています。夏休みの宿題で、皆さんも作文とか出たことがあるんじゃないかなと思うんですけど、子どもたちだけではなかなか書けない。そこで、希望する人には集まってもらって、このような形でグループごとに教員が付いて指導を行う。作文を仕上げるところまではいかないですけど、テーマを決めたり、途中まで書いたり、そういった講座になっています。子どもたちの参加もあるんですけど、教職員に作文の書き方の指導を覚えてもらうという意味で、私の方で教職員も集めているところです。

交流事業ということで、宮城県にある七ヶ宿町というところと交流を行っています。夏は、

宇検村に七ヶ宿町の子どもたちに来てもらって、海でのレジャーを楽しんでもらう。逆に、冬には、宇検村の小学校6年生の子どもたちが、宮城県七ヶ宿に行って、スキーをさせてもらう。なかなか宇検村の子どもたちは、雪を見えるという機会がないので、行くと非常に楽しい思いをして帰ってくる事ができています。子どもたちはスキーを覚えるのも非常に早く、引率の大人の私たちの方が、なかなかスキーが上達しません。子どもたちはすいすい滑れるようになります。

その他の事業ということで、タグラグビーとか、染め物の教室であるとか、そういったこともしています。今年、奄美大島など、この辺りのところが世界自然遺産に登録をされるということで、本年度から、環境学習世界遺産博士講座というものも開始しました。宇検村に住んでいる貴重な生物に触れ合ったり、琉球藍を探してみたり、そういったことを通して、子どもたちがこの宇検村、奄美大島、その自然にもっともっと興味を持ってほしい、そういった思いから始めている講座です。

大まかに、宇検村の教育委員会でどういうことをしていますよという話をさせていただきました。以上です。